

着物のパワー



NHK朝ドラ『あさが来た』のお三味線のお師匠さん、色っぽいですなあ。迷走坊さんは本で楽しまれているそう。この役の女優の野々すみ花さん。元「宝塚」で、別の

番組で吉原のおいらん役で出演された時もしっかり綺麗でした。彼女を見ていると、着物は世界に誇れる民族衣装だとつくづく思います。先日引退したサッカーの澤穂希選手も、振袖で授賞式に出席した時は嬉しかったなあ。

この朝ドラを見ていると、着物から洋服へと推移していく様子を見ることができます。それは髪型の変化よりもかなりゆっくりとしたものであることが今回の発見。それに「伽野屋」の従業員たちは着物姿でかなりハードな仕事をこなしています。時には相撲も取れます。着物はただ美しいだけではなく、本当は気候風土にあったとても機能的なものなのですね。

現在も着物で仕事をしている人というのと、我々僧侶、神職、落語家、相撲取り、老舗旅館の女将、午前中切ない思いで見ると『はぐれ刑事純情派』でママ役の眞野あずささんが頭に浮かんできます。以前訪れた京都の料理屋さんの女将さんが、「ヨーロッパ旅行へ着物で行って来ました」と言っておられました。「着物姿で、どんな暑い夏の日でも、お客様の前では顔から汗を出さない」というプロ意識十分な女将さん

だから、彼女にとっては「普通」のことなのかも知れません。「その御姿でエコノミーに十数時間座っていても大丈夫なのですか？」とお盆に顔汗だくでお参りしているプロ意識低い私は聞いてしまいました。それに関しては、「ちやんと」無理のない対処法があるそうです。それどころか、ヨーロッパ圏の一流ホテルのフロントに着物を着て宿泊の手続きに立ったとします。すると頼んでもないのに景色の良い部屋に替えてくれるそうです。更に無料でグレードの一つ上の部屋にしてくれることもあるそうです。また、高級レストランへ行っても良い席に案内され、日本人が洋服で行った時とはサービスが違うそうです。歴史あるヨーロッパはさすがです。他国の民族衣装を尊重し敬意を表してくれるのは、「大人」の社会ですね。

それではどうでしょう… 安部総理や他の大臣方、更にお役人さん方は他国へ出向かれる折、特に国益のために厳しく交渉しなければならぬ時には、全員が紋付袴の出で立ちで出席されてはいかがなものでしょうか。日本のお役人はへなちょこではなく、意外に私たちが思うよりずっとズケズケと交渉に臨んでくれているそうです。それだけ相手国も国益のため必至なのでしょう。ここはどうでしょう。紋付袴で。気分は坂本竜馬。なんなら、履物は黒のブーツでもようござんす。相手が受け取る印象は洋服姿と全く違うでしょう。ちなみに、早々「伊勢志摩サミット」で試みてみましょう。

そうそう、当町内会の訶梨帝母さんも、艶っぽい現役のお箏のお師匠さんどす。 俊徳丸